経営面積拡大に対応する手法としてスマート農業を導入（空知農業改良普及センター中空知支所）

背　景

【滝川市の概要】

〇耕地面積5,058haで、水稲を基幹とした水田複合経営が行われているが、後継者不足を背景とし、農家戸数減少と経営面積拡大が急速に進んでいる

〇道営土地改良事業の実施によるほ場の大区画化が行われている

【地域の課題】

〇H7に834戸経営面積5.5haの農家がH27には329戸12.4haと急激に減少、R7には179戸21.7haへの減少が生じる事が予想される

〇経営面積拡大に対応する作業効率化が求められている

〇労働力の不足に対応する技術導入が必要

普及活動内容

〇スマート農業技術の導入
滝川市ICT農業利活用協議会が活動を実施、普及センターは、導入する技術内容についての検討を行った

〇重点地区に実証展示ほ設置
（自動給水栓についての効果）

水管理を省力化したい！

設置された自動給水栓

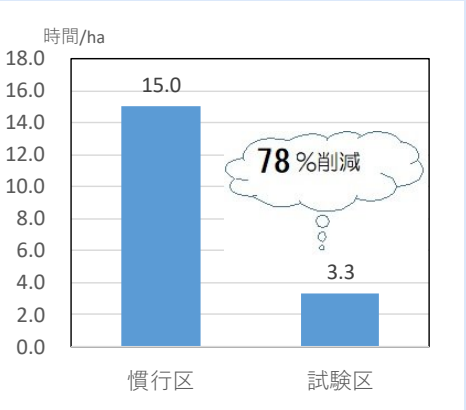
〇重点地区展示ほでの青空教室

自動給水栓の効果確認（青空教室）

普及の成果

【具体的な成果】

〇実証展示では水管理時間が4分の1に削減された



自動給水栓（WARTRAS）

【成果のポイント】

〇活動に理解があり協力の得やすい重点地区の農家に実証展示ほを設置し、意見を反映しながら取り組めた

〇今後も地域関係機関と連携して活動を継続

（連絡先：空知農業改良普及センター中空知支所　TEL　0125-74-2281）